

## 就任のご挨拶

外科統括部長

佐藤 正人

このたび、外科統括部長を拝命いたしました。これまでは小児医療を中心に行ってききましたが、今後は、北野病院外科系診療科の協力体制をよりいっそう緊密なものとし、北野病院へ来院される皆様のお役に立ちたいと考えています。医療安全管理室長を兼務しております立場からも、全外科系診療の向上に努める次第です。患者さん中心の診療を心がけたいと考えておりますので、外科系診療科一同、何卒宜しくお願い申し上げます。



当院集中治療部では集中治療医が中心となって全身管理を担当し、専門性の高い分野を担当医が行う semi-closed システムをとっています。このことにより、安定した患者管理と統一性のある集中治療室運営が可能になりました。しかし、多岐にわたる重症患者管理には、各診療科・看護部・薬剤部・臨床工学部・リハビリテーションセンター・栄養部などの他部門との連携が不可欠です。今後も他部門と情報交換しながら、より高度な医療をコンスタントに提供できるように努力していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## 就任のご挨拶

リハビリテーションセンター  
センター長 兼 主任部長

東本 有司

この度、リハビリテーションセンター長と主任部長を拝命いたしました。北野病院勤務は今回が初めてですが、このような大役を仰せつかり身の引き締まる思いであります。卒後は和歌山県立医科大学附属病院、東京大学医学部附属病院、国立療養所東京病院、近畿大学医学部附属病院などで勤務し、呼吸器内科学と老年病学の研修と臨床研究を実施してまいりました。その間に、総合内科専門医、呼吸器学会専門医、老年病学会専門医などを取得いたしました。しかし、肺気腫や気管支喘息などの慢性呼吸器疾患の患者さんを診させて頂く中で、リハビリテーションの有効性と重要性を実感することが多くなりました。そこで、近畿大学医学部リハビリテーション医学教室にて研修をうけ、リハビリテーションの専門医も取得いたしました。今後は内科医の視点をもって、きめ細かいリハビリテーション医療を提供させていただきます。



北野病院では 2017 年 8 月から入院支援センターが開設され、リハビリテーションセンターのスタッフも関わらせていただくこととなりました。このシステムで安心して入院していただき、退院時もスムーズにしていだけるようしていきたいと考えております。今後ともよろしく願い申し上げます。

## 就任のご挨拶

乳腺外科 主任部長

高原 祥子

この度、2018年4月1日付で乳腺外科主任部長を拝命致しました。一般外科研修後、2006年から乳腺外科専門となり、北野病院には2011年4月から勤務し、地域の先生方には平素より大変お世話になっております。

日本人女性の乳癌はまだ増加傾向です。乳腺外科は2006年4月の開設以来、乳癌の診断から手術・薬物治療・再発後の治療・緩和医療まで一貫した診療を行っています。最近の乳癌治療には遺伝学的検査やリスク低減手術の検討まで必要となってきました。近い将来、日本でもコンパニオン診断が導入される可能性もあります。患者様ごとに治療内容が多様化し、選択肢も多岐に渡ります。個々の患者様のニーズにあわせて、多診療科・多職種が相談しながらチーム医療として対応しています。



この6月から乳腺外科の診療体制を一部変更しました。予約のない患者様の当日受診が出来ないことで一部御迷惑をお掛けするかもしれませんが、最良の治療を提供できるようより一層精進して参ります。よろしくお願い致します。

## 就任のご挨拶

消化器内科 部長

福永 豊和

この度、2018年4月1日付で消化器センター内科部長を拝命しました。2007年6月に北野病院に着任以来これまでも地域の先生方には大変お世話になってきております。

主に肝臓領域を専門としており、肝炎、肝癌の診断・治療を担当しております。肝炎ウイルス治療はこの十数年で大きく進歩しましたが、特にC型肝炎治療は2015年を境に劇的に変化しました。インターフェロン治療時代とは違い大きな副作用もなく3ヶ月の内服のみで99%の患者さんがウイルスを排除できる時代となりました。

今後ウイルス肝炎由来の肝癌は激減しますが、近年は脂肪肝由来の発癌が増加しており肝癌早期発見の場はウイルス肝炎から生活習慣病に移ります。肝癌治療は他の癌と同様、根治治療としては外科切除にまさるものはありませんが、早期ではラジオ波焼灼など低侵襲治療で根治に至ることも可能です。先生方のご助力をいただきながら肝炎および肝癌治療に努めたいと思います。



## 就任のご挨拶

放射線科 部長

滋野 長平

2018年4月より放射線科常勤嘱託部長を拝命しました。

私の専門領域は放射線診断学です。1978年に京大を卒業後、天理よろづ相談所病院内科系レジデントを振り出しに、京大大学院を経て、京大放射線部、マサチューセッツ総合病院、大和高田市立病院放射線科、日本赤十字社大阪赤十字病院放射線診断科でお世話になりました。

北野病院では、これまでの経験を活かして、地域医療の発展のために、微力ながら努力する所存です。

何卒、宜しくお願い申し上げます。



## 妊産婦 GBS 保菌スクリーニング検査の実態調査

感染症科 部長 羽田 敦子

GBS (B群連鎖球菌) は、腸内に常在する細菌で、出産時に GBS が膈内に存在すると、産まれてくる新生児に敗血症、髄膜炎、肺炎など重症の侵襲性 GBS 感染症を起こす可能性があります。この感染症は年々増加しており、現在の予防方法は万全ではありません。

従来、産婦人科施設において母親妊娠中に陰部での GBS 保菌状況をスクリーニングし、分娩時にペニシリンを投与することにより、この新生児侵襲性 GBS 感染症を予防しておりますが、正しく実施されているかについて調査されておられません。

そこで今回我々は、検出率の高い正しい方法を周知する意味も含め、GBS 菌血症を減らすためにスクリーニング方法の実態調査を行うことと致しました。

貴施設の状況につきましてアンケートにご協力をお願い致します。

詳しくは、「GBS スクリーニング 北野病院」で検索して下さい。

スマートフォンご利用の方は、右の QR コードから直接アンケートページにアクセス頂くことも可能です。

何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

アンケート実施期間： 2018年2月27日～2019年3月31日

妊産婦GBS保菌  
スクリーニング検査

国内のGBSスクリーニング検査の  
実態調査を行っています。  
下記のURLよりアンケート調査に  
ご協力ください!!

[HTTPS://RDC01.DCC.MED.OSAKA-U.AC.JP/REDCAP/SURVEYS/?S=84REJRWWRN](https://rdc01.dcc.med.osaka-u.ac.jp/redcap/surveys/?s=84REJRWWRN)



# 多焦点眼内レンズの現状

眼科 部長 田邊 晶代

遠方または近方（中間距離）にしか焦点があわない単焦点眼内レンズに対して遠方および近方または遠方および中間距離に焦点を合わせ、眼鏡依存度を減らすことで生活の質を向上させるというコンセプトで開発されたものが多焦点眼内レンズです。本邦では 2008 年 7 月に先進医療として承認され、現在、国内での多焦点眼内レンズ挿入率は約 2%と報告されています。今回、当科での多焦点眼内レンズ導入にあたって、多焦点眼内レンズの現状についてご紹介いたします。

## 多焦点眼内レンズの種類と特徴

多焦点眼内レンズは焦点をふやす仕組みによって 1) 屈折型 2) 回折型 に大きくわかれ（図 1）、また最近になって焦点領域を拡大する（図 2）という新しいコンセプトの焦点深度拡張型眼内レンズも利用可能となりました。現在本邦で利用可能なレンズは 4 種類で、レンズ毎に独自の工夫がこらされています。

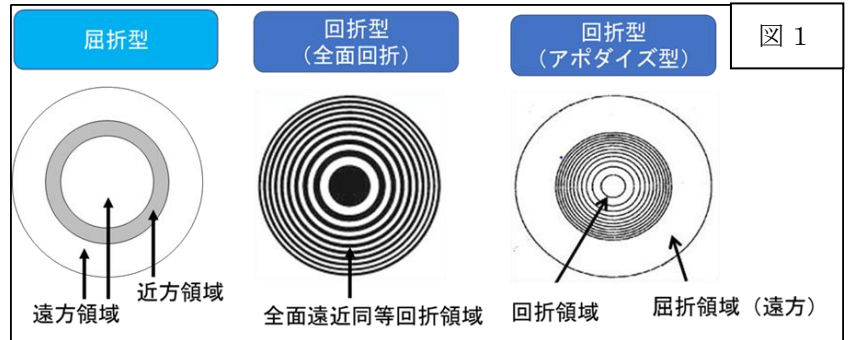


図 1

### 1) 屈折型（商品名 iSi :HOYA 社）

中心から同心円状に遠方、近方、遠方と屈折力の異なる 3 領域に分かれ、光の通過する領域に応じて遠方または近方に焦点が合うレンズです。瞳孔径によって光の通過可能な領域が変化するため、瞳孔径に影響する年齢や光量（明所/暗所）で見え方が左右されます。

コントラストが良いのが長所ですが、瞳孔径が小さい高齢者においては光がレンズ中心の遠方領域しか通過できず近方に焦点が合いづらく、また夜間の運転では瞳孔が広がり、近方焦点による光のグレア、ハロー（滲み、ぼやけ）が問題となりやすいのが短所です。

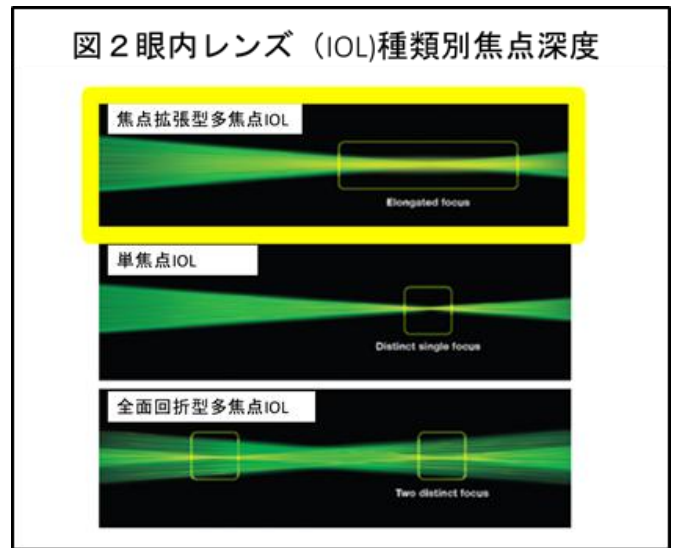


図 2 眼内レンズ (IOL) 種類別焦点深度

### 2) 回折型

回折原理を利用して光の焦点を遠方と近方に分配します。基本的に屈折型に比較して小さい瞳孔径でも近方視は良好ですが、回折現象により光エネルギーが一部失われるため、コントラスト感度の低下による waxy vision（もわっとした見え方）が問題です。

a) 全面回折型（商品名 テクニスマルチフォーカル：AMO 社）

レンズ全面において均一に光エネルギーを遠近同等に振り分ける設計です（約 20%の光エネルギーが喪失）。小さい瞳孔径でも、瞳孔の広がる薄暗い場所でも近方視は良好ですが、夜間運転時には近方焦点からの光によりグレア、ハローが生じやすい短所があります（図 3）

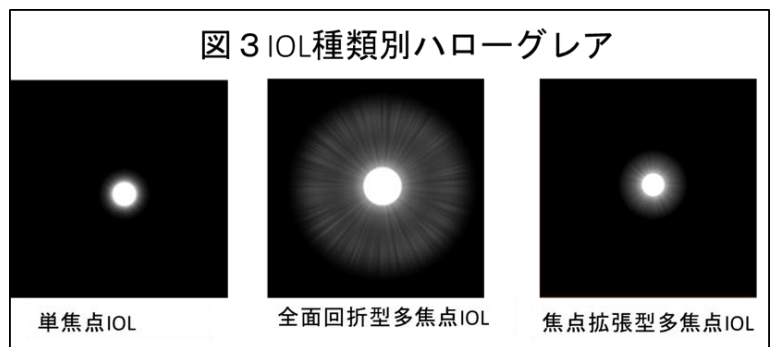


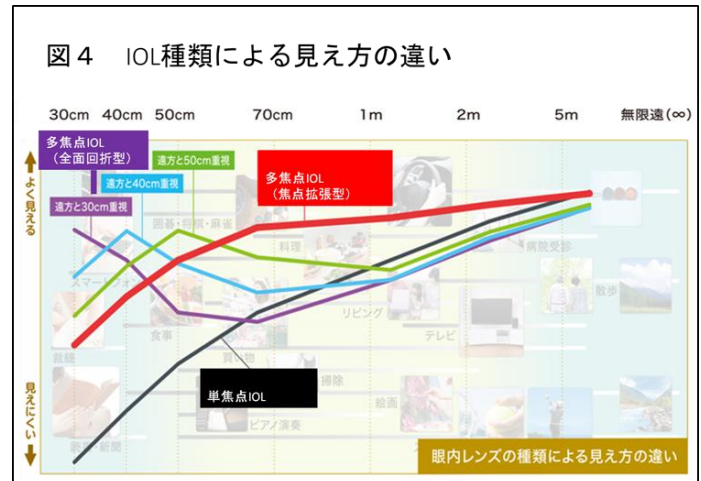
図 3 IOL 種類別ハローグレア

### b) アポタイズ回折型 (商品名 アクリソフレストア : Alcon 社)

レンズ中心部 3.6mm 径は回折領域(領域周辺部にいくにつれ遠方へのエネルギー配分が増加)、レンズ周辺部は遠方屈折領域で構成されています。瞳孔が広がるにつれ遠方への光量配分が大きくなり、近方への配分が小さくなるように設計されているため、夜間運転においてグレア、ハローが生じにくく、また屈折領域の併用により光エネルギーの loss も抑えられています。ただし暗所では少し近方がみにくくなります。

### 3) 焦点深度拡張型 (商品名 テクニスシンフォニー : AMO 社)

独自の回折技術 (エシレット回折デザイン) により焦点深度を拡張し、回折による光のロス を 8% に抑制、加えてアロマティックテクノロジーにより眼全体の色収差を補正するレンズです。焦点深度拡張により遠方から近方 (50cm) まで広い明視域で自然な見え方が可能となり、従来の多焦点眼内レンズで問題となっていた中間距離での落ち込みが解消されました (図 4)。また高いコントラスト感度の維持も可能となりましたが、グレア、ハローには注意が必要です。



### 多焦点眼内レンズの手術

手術自体は単焦点眼内レンズとかわりありませんが、“術後に眼鏡にできるだけ依存しない”よう正確な眼内レンズ度数決めがポイントとなります。通常、眼内レンズ度数は術前に検査を行い各種計算式を用いて、患者さんの希望屈折度数にあうように算出します。しかし、実際のところ術前の予想屈折度数と術後の屈折度数が多少ずれることがあります。ずれの可能性を少しでも少なくするために当科では術中屈折解析装置の“ORA”system を使用予定です。ORA は水晶体摘出後の時点で眼球屈折状況を測定、測定結果をインターネットを通じて全世界からの 100 万眼以上の database と照合、対象眼の状況にあった眼内レンズの度数を呈示することが可能です。ORA を使用することにより術前予想屈折度数の  $\pm 0.25D$  以内に術後屈折が収まる可能性が有意に高まると報告されています。

### 多焦点眼内レンズの問題点と適応

多焦点眼内レンズは便利なものですが、上述したようにレンズ毎に一長一短があり未だ完璧なレンズはありません。コントラスト感度低下やグレア、ハローの問題、多焦点眼内レンズ特有の見え方に慣れが必要であること、また眼鏡が必要である場合もあるなど (焦点拡張型多焦点 IOL についても日常的に眼鏡を必要としない患者は 85% 程度) 多焦点眼内レンズの適用を考える場合には、患者さんには十分な説明を行い、理解いただく必要があります。また黄斑疾患、緑内障など白内障以外の疾患がないことが大前提となります。

### 当科における多焦点眼内レンズ導入について

当科では平成 30 年度 5 月以降に多焦点眼内レンズを導入予定です。上述したように多焦点眼内レンズにはレンズ毎に特徴がある一方で多焦点レンズに何を期待するかも患者さん毎に異なります。患者さんに多焦点眼内レンズについてよく理解していただき、患者さんの眼の状況、ライフスタイルにあった low risk, high return の多焦点眼内レンズを選択すること、十分な術前検査と術中屈折解析装置の併用により、精度の高い多焦点眼内レンズを挿入することで、患者さんの QOV, QOL の向上に貢献したいと考えています。

## 褥瘡対策チームのご紹介

皮膚科主任部長 吉川 義顕

当院の褥瘡対策チームは、医師、看護師、理学/作業療法士、管理栄養士、薬剤師、事務職と多職種から構成されています。各々の専門性が十分に発揮できるようコミュニケーションを大切にしながら、褥瘡発生の予防や治療効果をあげることを目的にチームで取り組んでいます。毎週木曜日には、院内の褥瘡患者様をラウンドし、主治医・病棟看護師も一緒になって課題を検討し、最善のケア方法や治療の提供に努めております。また、院内の医療従事者へ向けた啓発活動として、年間計画に基づいた研修会を開催しています。深い褥瘡の場合、入院中だけでは治癒せず在宅に戻られてからも継続して治療が必要となります。また、新たに褥瘡を発生させないためには在宅での予防やケアが重要となります。今後は院内での活動だけにとどまらず、地域の医療機関や施設とも情報を共有し、在宅褥瘡ケアのための体制構築に貢献できるよう活動の範囲を広げていく必要があると感じております。地域の先生方のご助言・ご協力をお願いすることもあると思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



カンファレンス風景



チームメンバー

## 抗菌薬適正使用支援チームのご紹介

薬剤師 高橋 有

近年、安易な（不適切な）抗菌薬の使用による薬剤耐性菌の発生・蔓延に対する対策は、世界的にも大きな課題となっています。当院の抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team:AST）は個々の患者に対して抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くと同時に、有害事象をできるだけ最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できるように支援を行う事を目的として2017年6月に発足しました。感染症科医師や薬剤師、臨床検査技師、看護師が所属し、活動しています。具体的には広域抗菌薬の使用患者や菌血症の患者を中心にモニタリングを行い、適切な検査実施や抗菌薬の選択・用法・用量の適切性を評価しています。また週1回ASTカンファレンスを行い、より適切な感染症治療を行えるよう、主治医にフィードバックを行っています。当院は既に院内感染制御を目的とした感染制御対策チーム（ICT）が活動を行っていますが、相互に連携する事で感染制御・抗菌薬適正使用支援を推進しています。



カンファレンス風景



チームメンバー

## 医師の人事情報（副部長以上）

### 退職（2018年1月31日付）

| 氏名             | 職位      |
|----------------|---------|
| 岸本 渉（きしもと わたる） | 血液内科副部長 |

### 退職（2018年3月31日付）

| 氏名                | 職位                   |
|-------------------|----------------------|
| 山内 清明（やまうち あきら）   | 外科統括部長<br>兼 乳腺外科主任部長 |
| 和泉 俊明（いずみ としあき）   | 循環器内科副部長             |
| 宮本 昌一（みやもと しょういち） | 循環器内科副部長             |
| 旗智 さおり（はたち さおり）   | リウマチ膠原病内科副部長         |
| 糸谷 涼（いとたに りょう）    | 呼吸器内科副部長             |
| 西田 明子（にしだ あきこ）    | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科副部長       |
| 有近 重太（ありちか しげた）   | 眼科副部長                |
| 井関 雅紀（いぜき まさのり）   | 整形外科副部長              |

### 退職（2018年4月30日付）

| 氏名               | 職位      |
|------------------|---------|
| 寺川 耕市（てらかわ こういち） | 産婦人科副部長 |
| 黒田 能匡（くろだ よしまさ）  | 眼科副部長   |

### 昇格（2018年4月1日付）

| 氏名               | 職位                                 | 専門分野                           |
|------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| 佐藤 正人（さとう まさひと）  | 外科統括部長<br>兼 小児外科主任部長<br>兼 医療安全管理室長 | 小児内視鏡外科<br>小児外科                |
| 高原 祥子（たかはら さちこ）  | 乳腺外科主任部長                           | 乳腺疾患 診断・治療                     |
| 福永 豊和（ふくなが とよかず） | 消化器内科部長                            | 肝細胞癌の診断と治療                     |
| 小菌 祐喜（こぞの ゆうき）   | 産婦人科副部長                            |                                |
| 井上 大生（いのうえ だいき）  | 呼吸器内科副部長                           |                                |
| 垣田 浩子（かきた ひろこ）   | 腎臓内科副部長                            | ネフローゼ症候群<br>慢性腎不全<br>腎炎<br>腎移植 |
| 吉田 季来（よしだ みさき）   | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科副部長                     |                                |

## 入職（2018年2月20日付）

| 氏名              | 職位             | 専門分野 |
|-----------------|----------------|------|
| 森田 雄介（もりた ゆうすけ） | 心臓センター循環器内科副部長 |      |

## 入職（2018年4月1日付）

| 氏名               | 職位                       | 専門分野   |
|------------------|--------------------------|--|
| 東本 有司（ひがしもと ゆうじ） | リハビリテーションセンター長<br>兼 主任部長 | リハビリテーション医学<br>呼吸リハビリテーション                           |
| 滋野 長平（しげの ちょうへい） | 放射線科部長（嘱託）               | 画像診断   |
| 鈴木 良（すずき りょう）    | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科副部長           |  |
| 佐治 隆彦（さじ たかひこ）   | 整形外科副部長                  | 関節外科<br>肩関節外科（関節鏡、人工関節）<br>膝関節外科（関節鏡、人工関節）<br>スポーツ整形 |
| 高木 賢一（たかぎ けんいち）  | 神経精神科副部長                 | 精神科一般  |
| 山本 和代（やまもと かずよ）  | 血液内科副部長                  | 血液疾患全般   |
| 中島 俊樹（なかじま としき）  | リウマチ膠原病内科副部長             | リウマチ・膠原病全般   |
| 岡田 務（おかだ つとむ）    | 放射線科副部長                  | 中枢神経系画像診断<br>画像診断全般                                  |
| 山地 雄平（やまち ゆうへい）  | 心臓センター循環器内科副部長           | 循環器内科  |
| 室山 絵美子（むろやま えみこ） | 眼科副部長                    |  |

## 北野病院公式 Facebook の QR コードができました！

facebook

携帯電話やスマートフォンから手軽にアクセスいただけます。  
日々情報を更新しておりますので、是非ご覧下さい。

